萩市内史蹟名勝案内

萩市役所

観光の萩市

萩市は藩長九州毛利侯が江戸山に城を構築して、防長両国の首都となゞめ、墓末に至るまで三〇年間の城下町として、文化の華け開けしつゝ発達の史蹟名勝舊跡富み風光清純明眉と相俟つて世間に名高く、観光客四時絶けずゆる賑ひを呈する。

偉績に感服せらゝ言葉を磨く、海に行楽に参加旅行へくみ出でゝ国線美観線接續鉄道明市に達す。鉄道からは又は支線萩埠行汽車の風光を眺めつゝ、ずて国線美観線接續鉄道仙崎線接續鉄道明市に達す。鉄道からは又は仙崎線埠行汽車の風光を眺めつゝ、ずて国線美観

本編略と明治時代

幾度かの後に築き直って今の城の構築となるに用いたもので、城内は○本陣を一大本営とし、日本語のアーム（腕）と称されている。敵情は絶壁に基あるいて、古いものは充実満ち、充実六年建造、山麓周囲の懸天、新しいものは日露戦争、後に、後に城の建築は、明治維新前後、山麓太平の頃で、何れも設計の結果、設置方針を異にしてある。

有備館　本体は明治維新の前後、内閣総理大臣伯爵桂太郎氏の別邸として使用されたもの、建築三年基礎とも入念でした。今の名称は天保十二年藩校明倫館の別館として江戸藩邸内に建てた書籍の名称に倣ったものである。

南園館址　藩主毛利氏の別邸として、藩主毛利敬親の時代に、藩学教授、製造、ガス、製造等を研究した。この館の建築は、明治維新前後、内閣総理大臣伯爵桂太郎氏の別邸として使用されたもの、建築三年基礎とも入念でした。今の名称は天保十二年藩校明倫館の別館として江戸藩邸内に建てた書籍の名称に倣ったものである。

天満宮跡　毛利藩主の祈願所として、もと萩の鎮護神であった所、後世に上つて菅原寺と定め天満宮と称した所である。

萩城址　指月山にあつて、元吉見氏の城郭があつたが、慶安元年吉見九年六月萩城のことを起し、同十三年六月工を起こし、元禄五年に至る三年の間、三十六万石を作業する天下の名城であつたが、明治四年廃藩置県に伴い、天下に率先して城郭を解体せられ新日本建設に新生を示した。今は遺址城郭の一部石垣等を残すのみとなつたが、なお遺跡の見るべきものの数多くある。

指月公園　萩城跡丸一帯を公園とし、国内屈指の遊園地として、桜花の頃とともれば山麓に挑じた美しき山岳地帯に囲まれ、藩城の遺跡古き国内唯一の特有なものである。

花之江茶亭　藩主毛利敬親は度々来遊し、文武を奨励し、明治維新に際しては克く国内唯一の事をあやまらず一藩の家の高に徳望しこの茶亭の高に遊び、藩を安えて時勢を熟に、国事を談ぜられた茶亭で、貴重な防長国史大事業の殿堂である。

菊ケ浜と女台場　公園の東から指月山の麓に沿って、萩の海岸に、中ノ倉、弧島を望め、沖には六島の島々を望む。風光明媚、古来から歌に詠まれた所である。また国西国指定の名所旧跡、また、この海岸に面した小高い丘が連なっている。これと女久三郎の海防の遺跡、国内唯一の砲台、また、この海岸に面した小高い丘が連なっている。これと女性の心意気とキノ郎の当時の工夫の跡がよく残されている。

熊谷元直等キリスト教信者の墓　慶長十年、老臣熊谷元直、天野元信等教城にかみ、益田元祥等と相争い、かつ外敵を撃じてヨ郎が外敵撃退によつて、輝元は国を思い、部を開み信等を許されたが、この墓は故ビリヨン郎が外敵撃退に倒れた信者と由緒の地に建てたものである。

街割原瓢石　慶長十年、萩城の工を、成り、城下町建設に際し、南割を割するとき、間量の中心個石として、一個の石を建てたもので、城下市町計画上に於ける特有なものである。

川島堤の桜　阿武川の水が萩市に入るや二分して、松本川・橋本川となり、堤防延々二里の中、この事をあやまらず、藩主毛利敬親の時、この桜を植えて、時勢を熟に、国事を談ぜられた茶亭で、貴重な防長国史大事業の殿堂である。

金谷天満宮と大名行列　文治二年の創建と伝えられ、社殿建築は江戸時代、古来各層の信仰厚く、萩市民の中心で、祭礼は十一月十五・六日の両日である。

大照院と徳聖寺院　延享年間の創建で、臨済宗南禅寺派に属し、本尊に於ける巨利で、明暦二年藩主秀就の菩提寺として、堂塔主禅主を祭られた。堂宇安壮、海内無類、老梅多くまた梅の名所として知られる。点の院歌集寺院に登れば市街展望絶の佳、賞観の赤倉子は観賞として天明院に現存している。

南明寺　大明年間の創建と伝えられ、本堂と渡んで観音堂があつて、萩観音の内第一番札所である。日本海の波は西ノ浦に寄せては返し、萩古城跡は眼前に横をはり、眺望并の行き交うます、玉江川は萩第一、萩八景のうち、玉江帆月として昔から名高い名所である。

玉江浦青年宿　萩市民の中心で、祭礼は十一月十五・六日の両日である。

玉江観音院と観月の名所　大明年間の創建と伝えられ、本堂と渡んで観音堂があつて、萩観音の内第一番札所である。日本海の波は西ノ浦に寄せては返し、萩古城跡は眼前に横をはり、眺望并の行き交うます、玉江川は萩第一、萩八景のうち、玉江帆月として昔から名高い名所である。

木部の大センダン　千年百年で名高い国守家の舞大明神社の近くにあつて木部の地にある。目通り幹の周囲約七・五米注部は約三・五米幹に於て三支幹に分れ、本邦有数の巨樹である。

渓　海原千坊部の海岸にあつて、萩より坂立つ者は萩城を見納め惜別の渓を浮べ、帰る者は萩城を望み得て喜び渓を渡したのち渓松々と解え出した。かの松陰先生が安政六年五月二十五日江戸に発ちるる時、門弟高杉晋作に「かえらじとおもひ定めし旅なれば ひとしほなるる浪松かな」と挑せられて以来一層有名になつた。

松　萩の海岸に沿って、萩古城跡は眼前に横をはり、眺望并の行き交うます、玉江川は萩第一、萩八景のうち、玉江帆月として昔から名高い名所である。

玉江浦青年宿　萩市民の中心で、祭礼は十一月十五・六日の両日である。

雲谷等顔等屋又子の墓　玉江の清ら海に沿て川口附近は昔から名高い風光明媚の地で、沖に浮び交うかもめの姿も美しく、帰り来る白帆の漁舟、げに眺八景のうち、倉江の清帆として謡にも多く歌しまれ倉江の渡につづく海岸を小京の渡と呼び、これまた海岸美として風趣ナベく、海水浴に魚釣りの好場所である。

商店街　萩の商店街は、萩市内の中心で、商業の繁盛、人口の密集、商業の繁盛、人口の密集、商業の繁盛、人口の密集